Sapporo Gakuin University
# 学園広報
2012.11.20 No.113
編集・発行
札幌学院大学 広報課
〒069-8555 北海道江別市文京台11番地
電話(011)386-8111 http://www.sgu.ac.jp

# 経営学部カリキュラム改革

経営学部長 山本 純

二〇〇九年に商学部から改組転換した経営学部は、今年、完成年度を迎えました。この間、学生達は新学部の教育理念と教育課程のもと様々な学びをして成長し、第一期生の就職活動もこれまで以上の成果を上げています。より高度な資格取得に挑み、見事、資格試験に合格し、次のステップへと挑戦を続ける学生も増えました。

この四年間、経営学部では絶えずカリキュラムの教育効果や問題点、学生の履修行動や就学状況について検証し、考えてきました。学生参画のFDフォーラムも毎年実施し、学生諸君の様々なカリキュラムに対する要望も聞いて参りました。

その結果、学生諸君の学びの環境をさらに豊かにするために、学部としてカリキュラム改革を実施し、経営学科における三コース制を、キャリア・マーケティング専攻と経営管理専攻の二専攻制へと変更することにしました。

二専攻制により、キャリア・マーケティングを中心とした経営学の学修に必須のマーケティング・センスの養成強化と徹底した就職支援教育、また社会人基礎力と実践的なマネジメント力を養成するプロジェクト実践などの科目の充実が図られます。特に、キャリア・マーケティング専攻では、全国でも珍しいチーム・ティーチングを導入し、これまでのone to one教育（徹底した小人数教育と個別指導）にクロスさせての重層的、多面的な学生指導を展開します。

二学科の特色を活かし、ファイナンス系科目を中心として二学科共通開講の専門科目を増やし、またリスク・マネジメント、ファイナンシャル・プランの科目を充実し、リスク検定やFP技能検定の指導も強化します。より多くの科目を初年度の段階から学習できる環境も整備します。幅広い教養、また就職に向けての基礎学力向上のため、経営学部独自の教養科目「文化と経営」や「ビジネス計算」などの導入を図ります。

体験学習、資格指導を強化してスタートした経営学部ですが、さらに実践的で幅の広い学習環境、また確実な就職に結びつく指導体制の強化が図られます。

経営学部カリキュラム改革リーフレット

# 本学と置戸町との交流協定が締結されました

人文学部教授 臼杵 勲

八月十七日に、奥谷浩一学長と井上久男町長が、人文学部人間科学科の考古学実習授業の置戸町内遺跡での実施をきっかけとしていま本学と置戸町との交流協定が締結されました。本学の考古学実習・博物館学実習を通してそれぞれの立場から町内の文化財・博物館資料等の保護を図ることが目的です。今回の協定は、人文学部人間科学科の考古学実習授業の置戸町内遺跡での実施をきっかけとしています。

置戸町は、国内有数の黒曜石原産地の一つとして知られており、町内には多くの遺跡が存在しています。しかし、本格的な発掘調査はしばらく行われておらず、多くの遺跡の内容確認が必要とされています。

本学は、昨年度より町内の勝山神社遺跡で調査を開始し、多くの研究者たちの注目を集めています。今年度は八月十二日～十八日に調査を実施し、数百点の剥片・石器からなる集中地点を検出しました。今後は、遺跡の広がりや内容をさらに詳しく調べ、成果をまとめた発掘調査報告書を作成していく予定です。

この発掘調査では、宿舎として勝山地区の公民館をお借りし、地区の住民の方々には日々多大な協力をいただきました。十四日の盆踊り大会・住民と学生の交流会に、調査参加者全員が参加し、大会のお手伝いもしました。また、十七日の晩には、学長も参加しお別れのバーベキュー大会が開かれ、地区の方々との親睦・交流を深めることができました。このような機会を持つことは、学生たちにとって貴重な経験です。

置戸町は社会教育や福祉が充実した自治体として知られ、また木工製品を活用した町づくりでも著名です。

今後は、本学の他の実習やゼミ活動の場の提供、大学の地域活性化への協力など、様々な交流・地域連携へと広がっていくことが期待されています。

奥谷浩一学長と井上久雄置戸町長

発掘調査の様子

バーベキューで交流を深めました

# 日商簿記1級に2名が合格しました！

**会計ファイナンス学科 三年 小川まりえ さん**

簿記を知ったのは、中学生の頃TVCMで就職に役立つ資格として紹介されているのを見たことが始まりでした。実際に簿記に触れたのは、高校三年の時です。

簿記自体が数字のパズルのようで楽しかったこと、日商三級程度では就活の役には立たないこと、試験を合格するごとに目標が高くなったことから、最終的に一級取得という形になりました。

サークル活動やアルバイトの代わりに簿記をやっていたようなものなので、合格したときは、目に見える形で結果が出たことに対する安心感が大きかったです。

就職活動を有利に進めるために始めた勉強でしたが、進めていくうちに目標も高くなり、今ではこれまでの勉強を足がかりに税理士資格取得を目指しています。

**会計ファイナンス学科 三年 山下 凌平 さん**

私は、高校生の時に初めて簿記を知り、勉強を始めていきました。高校生のとき簿記二級を取得する事が出来たので、もっと簿記の勉強をしてみたいと考えさらに上位の資格である簿記一級を取得しようと思いこの大学に入学しました。

そのため、一年次より原先生のもとで一級の勉強をしてきました。一級を取得出来た際には、最初は信じる事が出来なく他人事のように感じましたが、実感が湧いてくると同時にとても嬉しく今までの努力が報われたので安心しました。

これからは、この資格により税理士試験の受験資格を得る事が出来たので、税理士の勉強を進めていきたいと考えています。そして、来年の税理士試験で一科目でも多く合格出来るように努力していきたいです。

# 第3回札幌学院大学心理臨床センター市民講座2012
# こころの健康
## シンポジウム―若者の自立を支えるために―

今年も札幌学院大学心理臨床センター市民講座「こころの健康」を、学園祭初日の十月六日（土）十三時から開催いたしました。

三回目になる本年度は「若者の自立を支えるために」と題して、十年ほど前から問題になっている「ひきこもり」と、近年よく耳にするようになった「発達障がい」に焦点を当て、実際に関わっている立場からみた支援の課題について話し合うというシンポジウムを行いました。

シンポジウムには、本学出身の臨床心理士の木谷岐子先生（発達支援室なつつ）、臨床心理士でありまた精神保健福祉士でもある山本彩先生（札幌市障がい者相談支援事業）にご登壇いただき、本学心理臨床センター長の村澤和多里も話題提供と討議に加わりました。

シンポジウムの内容は、はじめにセンター長の村澤から「若者自立支援の動向とひきこもり」というタイトルでひきこもりの若者たちについての援助実践をもとにした話題提供があった後、木谷先生からは「発達障がい」という概念についての説明を含む「発達障がいの若者の自立をめぐって」という話題を提供いただき、続いて山本先生から「発達障がいと「ひきこもり」という問題」というタイトルで二つの問題を絡めた話題を提供していただきました。後半では、「発達障がい」などのリスクをもつ若者たちが、自分を責めながらひきこもっていくという悪循環が浮かび上がり、そのような悪循環に介入していくよう支援の必要性について話し合われました。

当日は、近隣に在住の方を中心とした六十六名の参加者が熱心に聞き入ってくださり、「ひきこもり」や「発達障がい」に対する関心が高まっていることがうかがわれました。また、参加者の皆さまからは貴重な意見や質問をいただき充実した内容になりました。ご登壇いただきました先生方ならびにご参加くださいました皆さまに、記して感謝申し上げます。

（心理臨床センター長　村澤 和多里）

# 2013年度入学試験日程

■一般入学試験　A日程

| 学部・学科 | 出願期間 | 試験日 | 試験場 | 合格発表 |
|---|---|---|---|---|
| 人文学部人間科学科<br>人文学部英語英米文学科<br>人文学部臨床心理学科<br>人文学部こども発達学科 | 1月7日(月)～1月25日(金)必着 | 2月7日(木) | 本学<br>旭川<br>帯広<br>北見<br>函館<br>青森<br>仙台<br>東京 | 2月22日(金) |
| 法学部法律学科<br>経済学部経済学科<br>経営学部会計ファイナンス学科<br>経営学部経営学科<br>社会情報学部社会情報学科 | | 2月8日(金) | | |

■一般入学試験　B日程

| 学部・学科 | 出願期間 | 試験日 | 試験場 | 合格発表 |
|---|---|---|---|---|
| 人文学部人間科学科<br>人文学部英語英米文学科<br>人文学部臨床心理学科<br>人文学部こども発達学科<br>法学部法律学科<br>経済学部経済学科<br>経営学部会計ファイナンス学科<br>経営学部経営学科<br>社会情報学部社会情報学科 | 2月16日(土)～3月1日(金) | 3月5日(火) | 本学<br>旭川<br>青森 | 3月15日(金) |

■大学入試センター試験利用入学試験

| 学部・学科 | 区分 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表 |
|---|---|---|---|---|
| 人文学部人間科学科<br>人文学部英語英米文学科<br>人文学部臨床心理学科<br>人文学部こども発達学科<br>法学部法律学科<br>経済学部経済学科<br>経営学部会計ファイナンス学科<br>経営学部経営学科<br>社会情報学部社会情報学科 | A日程 | 1月7日(月)～1月30日(水)必着 | 本学独自の試験は課さない | 2月22日(金) |
| | B日程 | 2月16日(土)～3月1日(金)必着 | | 3月15日(金) |
| | C日程 | 3月4日(月)～3月8日(金)必着 | | 3月16日(土) |

# 教職員人事

◎昇任
平成二十四年八月一日付
教授
山田　智哉

◎異動
平成二十四年七月三十日付
総合政策部長兼広報課長　夏井　正史（総合政策部長）
教務事務部長付学生サポートセンター　設置準備室長　飛田　哲也（学生課長）
学生課長　山本　勝（総合政策部広報課長）
教務部教務課学習支援係長　井上　寿枝（教務部教務課経済学部係長）
教務部教務課経済学部係長　佐藤　秀之（キャリア支援課キャリア支援係長）
キャリア支援課キャリア支援係長　鈴木　仁（図書課）
教務部教務課　中村　眞紀（総務部総務課付）
稲垣　愛弓（総務部財務課）
教務部大学院・研究課　田巻　文乃（教務部教務課）
総務部財務課　榎本　愛（教務部教務課）
入試課　今野　亮介（情報処理課）
教務部教務課　中村　眞紀（総務部総務課付）
入試課入試係長　宮川久美子（入試課）
総合政策部広報課広報係長　尾崎　貴司（教務部大学院・研究課）
図書課　砂田　絹子（教務部教務課学習支援係長）
教務部教務課　今野　亮介（情報処理課）
教務部教務課　中村　眞紀（総務部総務課付）

# 私大助成署名ありがとうございました

札幌学院大学公費助成推進協議会は、全国の私学と共に私学への国庫助成を拡大し、私立大学に学ぶ学生と父母の負担増を抑え、教育研究条件を改善することを目的に活動しております。

活動の一環として、七月上旬に、一年生の保護者の皆様へ国会請願署名と募金のお願いをさせて頂いたところ、八月末現在の集計で、一、〇四一筆の署名と、七三、〇〇〇円の募金をお寄せ頂きました。また、「新入生の家計負担アンケート」にもご協力をいただきました。この紙面をおかりしまして、皆様に心より感謝申し上げます。

今後は、ご協力頂いた署名を基に国会請願を行い、全国の私学と力をあわせ、公費助成の増額を訴えて参ります。お寄せいただいた募金につきましては、署名のお願いに関する郵送料をはじめ、本協議会の活動運営費として大切に活用させていただきます。

今後も賛同いただける声を力にして活動を続けていきたいと存じますので、皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

札幌学院大学
公費助成推進協議会　代表
人文学部教授　鶴丸　俊明

（平成二十四年四月一日から平成二十四年八月三十一日からまでの報告）
敬称略・順不同

阿部　利典　石田　馨
伊藤　清　遠藤　一彦
大島　章　小木曽　剛
海鋒　浩幸　岸　幸子
グローズ　T・P・P
黒田　正弘　五ノ井　学
酒井　忠雄　菅原　真紀
菅原　秀二　杉井　酉子
杉本　正　高倉　博人
髙橋　貢　高屋　真一
谷川　芳一　寺田　隆
中原　吉則　中村　民男
中本　昌伸　平石　修
福岡　竜二　藤本　一夫
松本八重丸　三木田　光
水門　博雄　村上　昇
桃山　光雄　森原　久雄
横山　末雄　吉田　邦弘
吉田美智子　若園　芳一

**募金のご協力に深く感謝申し上げます**

# おいしい！安い！100円朝ごはん

江別市内四大学・二短大学共同の企画「秋の食生活改善運動―朝食を食べよう！キャンペーン」が十月二十三日から二十五日まで実施されました。

毎年春と秋に行われるこの企画。今春は五月二十九日から三十一日まで実施され、好評を得ました。

今回もJA道央と北海道米販売拡大委員会から江別産のお米「瑞穂のしずく」が提供されており、ご飯、味噌汁（スープ）、牛乳を基本に、日替わりの主菜と好きな小鉢二品が選べて、一食ワンコイン百円です。このボリューム（＝写真＝）で驚きの百円。とても安いのに栄養価はバツグンの朝食がとれ、一日元気に過ごせます。

学食六階「カフェテリア・ソレイユ」は朝から学生、教職員、地域の方でにぎわいをみせ、美味しくて大満足の三日間でした。

10月23日のメニュー

**メニュー一覧**

**10月23日（火）**
●ハンバーグのおろしソース、●コーンポタージュ　●ライス

**10月24日（水）**
●サバの塩焼き、●肉じゃがコロッケ、●豚汁　●ライス

**10月25日（木）**
●ポークの葱塩炒め、●わかめ卵スープ　●ライス

※他に牛乳と好きな小鉢2品つき

# 保護者懇談会

## 保護者の皆さまと連携し、学生の成長を支援するために

保護者懇談会は、大学と保護者が協力して学生の学びと成長を支えていこうという目的で、一九七四年から開催され今年で三十八年目を迎えました。

今年は、七月に帯広と釧路で、九月に苫小牧と函館で、そして十月には紅葉の本学キャンパスに道内外から三〇〇名を超える保護者の皆さまをお迎えして開催することができました。ご多用のところお越しいただいた保護者の皆さまには厚くお礼申し上げます。

全体説明会では、本学の教育活動、学生生活支援、就職活動支援等について、個別面談では、学部担当教員よりお子様の修学状況（単位修得・成績等）のお話をさせていただきました。

保護者の方からは、「大学での学修の仕方、『成績通知書』の見方がわかった」、「子どもの大学での状況がわかり安心した」等の感想が寄せられています。

大学としては、今後も引き続き、保護者の皆さまと連携しながら、ひとり一人の学生の成長をきめ細かく支援していきたいと考えております。

# 第三十六回学術講演会・函館市民講座を開催

## 第三十六回学術講演会

七月十八日、第三十六回学術講演会「講演と音楽の夕べ」を、札幌市教育文化会館にて開催しました。学術講演会は、昭和五十二年に第一回の開催以来今回三十六回を迎えました。第一部は「北海道方言の引き算」と題し、佐々木冠経営学部教授が講演を行いました。「自然に使っていた北海道弁について考える機会になりました」などの感想をいただきました。

第二部は、「大平まゆみの恋するヴァイオリン」と題し大平まゆみさん（札幌交響楽団コンサートマスターヴァイオリン）、森吉亮江さん（ピアノ）によって演奏されました。

北海道方言について語る佐々木先生

大平まゆみさんと森吉亮江さん

## 函館市民講座

八月三十日市民講座を函館市芸術ホールにて開催し、多くの函館地域の皆様にお越しいただきました。

第一部は「今だからこそ、教育には人情が必要だ」と題し、渡邉知樹人文学部教授が講演を行いました。「人と人が正面から向き合っていく事が人情という事が伝わりました。人情をもって生徒と向き合える先生を育ててください」と感想と励ましの声を来場者からいただきました。第二部は学術講演会と同テーマで大平まゆみさん、森吉亮江さんによって演奏され、二人が奏でる魅力的なハーモニーに会場全体が酔いしれました。

和やかな雰囲気で講演する渡邉先生

# 2013年大学院二期入試スケジュール

| | |
|---|---|
| 出願期間 | 2013年1月15日(火)～1月28日(月)「必着」 |
| 試験日 | 2013年2月 9日(土)　臨床心理学研究科（一般筆記・社会人）<br>法学研究科 |
| | 2013年2月10日(日)　臨床心理学研究科（一般面接）<br>地域社会マネジメント研究科 |
| 合格発表 | 2013年2月21日(木)　午前10時 |

＊大学を卒業されていない方でも、入学資格審査に合格すると受験資格が与えられます。
**入学資格審査出願期間**　11月22日(木)～12月5日(水)「必着」

# 法学部公開講座

法学部では、九月二十六日より「多角的にみる韓国／朝鮮」というテーマのもと、韓国・朝鮮の事情に精通した講師を毎回お招きしてのリレー講義を開催中です。韓国・北朝鮮は過去も今も激しい歴史的な変化を経てきました。これからも北朝鮮の動向次第では激動期を迎えることにもなるかもしれません。他方、日韓関係では冷戦終えん以降、経済だけではなく文化交流が増えると同時に、外交上の紛争も生じてきました。このような朝鮮半島をめぐる変化を韓国／朝鮮の事情に詳しい講師陣が、歴史的に、文化的に、政治的に、経済的にとらえてみようという内容になっております。

＜第9回以降の講師とテーマ一覧＞

| 回 | 日付 | 講師名 | テーマ | 所属 |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 11/21 | 朴　鍾碩 | 北朝鮮経済体制の変化 | 北海道大学法学研究科助教 |
| 10 | 11/28 | 李　炯直 | 教育と韓国 | 北海商科大学商学部准教授 |
| 11 | 12/5 | 片桐　由喜 | 韓国に学ぶ、寄付文化 | 小樽商科大学商学部教授 |
| 12 | 12/12 | 玄　武岩 | 「反核」の思想と無思想―韓国における「原爆」体験のゆがみ | 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 |
| 13 | 12/19 | 池　炫周<br>直美 | 韓国における多文化政策：理想と現実の間で | 北海道大学公共政策大学院専任講師 |
| 14 | 1/9 | 清水　敏行 | 韓国の大統領選挙の政治的意味 | 札幌学院大学法学部教授 |
| 15 | 1/23 | 金　美花 | 解放後の朝鮮半島 | 北海学園大学、札幌学院大学非常勤講師 |

毎週水曜日開催（12月26日(水)、1月2日(水)及び1月16日(水)は開講しません）**会場** 札幌学院大学 D202教室（D館2階）（江別市文京台11番地）**講義時間** 13：10～14：40 **受講料** 無料で、どなたでも受講できます。人数の制限はありません。事前に申し込む必要はありませんので、当日直接会場までお越し下さい。

# リュージュ／JOC強化指定選手 金山　英勢さん（法律学科四年）にインタビュー

**金山さんは本学法律学科に在籍し、現在一般社団法人ボブスレー・リュージュスケルトン連盟所属しJOCオリンピック強化指定選手として活躍しています。リュージュは、氷で造ったコースにそりで仰向けに乗り速さを競うスポーツです。**

**日本の有力な選手の一人であり、二〇一四年開催のソチオリンピック出場権獲得に向けて日々トレーニングに励んでいる、金山さんにインタビューをしました。**

マルハンワールドチャレンジャーズでのインタビューの様子

**★経緯・成績**

11歳　1/9　初めてフッズで体験滑走
　　2/4　当時のリュージュ少年団に入団
12歳　全日本ジュニア選手権に出場
16歳　初めて日本チームの海外遠征に参加
18歳　世界ジュニア選手権29位
19歳　前半イタリアチーム帯同・後半国際連盟チーム帯同
　　世界ジュニア選手権27位
20歳　イタリアチーム帯同・ワールドカップ転戦
　　世界選手権35位・アジア選手権優勝・全日本優勝・世界ランキング49位
21歳　国際連盟チーム帯同・ワールドカップ転戦・全日本優勝
　　U-23世界選手権8位・世界ランキング35位

※今年のマルハンワールドチャレンジャーズにおいて最終選考14人中7名に選ばれ、見事協賛金100万円を獲得されました！

アスリートエール

**金山さんブログ**
**http://ameblo.jp/hideluge/**

**リュージュに興味をもったのはいつですか。また、興味をもったきっかけなど教えてください。**

小学五年生の時に札幌南区のフッズという施設のリュージュ体験会に参加したのがきっかけでした。

当時は、スキー、空手、陸上、テニス、水泳をしていましたが、リュージュの一番の魅力でもあるスピード感に惹かれてどんどんのめり込んでいきました。

**進学先に本学を選んだ理由をお聞かせください。**

オープンキャンパス参加の際に、大学の方々の親切な対応や、第二キャンパスのトレーニング施設が充実していたこと、なによりもスポーツと学業の両立ができることです。

**ソチオリンピックの出場に向けて意気込みをお聞かせください。**

一つ一つの自分の課題をクリアしていき、目標であるソチオリンピック表彰台に上がることと、リュージュの認知度を広めていきたいと思います！

# 社会情報学部学生自治会主催 スポーツ大会が開催されました

去る十月二十日（土）、本学第二キャンパスサブアリーナにて、社会情報学部スポーツ大会を開催しました。このスポーツ大会は社会情報学部内での親睦を目的として、社会情報学部学生自治会が年に数回企画しているものです。今回は、バスケットボールを中心に行いました。午前十時からの開会式、準備運動の後、6on6、3on3のほか、フリースローやドリブルなどのミニゲームなどを行いました。賞品を競いながら、親睦を深めました。今回はかなり参加人数が少なくなってしまい、色々な種目を行えなかったのは残念な事でありましたが、参加者間での交流を図る良い機会となりました。今後の自治会による企画にも積極的に参加してもらいたいと思います。社会情報学部学生自治会は、今後も自治会員の皆様に還元出来る活動を行っていきますので、ご理解とご協力の程よろしくお願いします。（社会情報学部学生自治会執行委員長・出崎涼）

# 秋の空に笑いが響きわたる!!
## ―鳴秋祭が開催されました―

第42回札幌学院大学大学祭実行委員長　松田 尚真（経済学科三年）

「晴れ渡る文京台の秋空に、祭りに関わる全ての人の声が鳴り響け」という願いを込めた大学祭「鳴秋祭（めいしゅうさい）」は、十月六日から八日までの三日間で行いました。初日が一時的な大雨にたたられ準備していた露店が開店できませんでしたが、三日間で約三千名の市民の皆様にご来場頂きました。

ステージ企画は各学部の学生自治会持ち込み企画を含め、全十五の企画を行い、多くの参加者や来場者の方々に楽しんでいただきました。二日目のお笑いライブではお笑い芸人の「我が家」「もう中学生」「ビグマリオン」を招き約九百名の来場者を笑いの渦に巻き込みました。

また、例年開催しておりますフリーマーケットでは大学周辺地域の自治会の皆様の参加もあり、地域との結びついた企画になりました。その他屋外や教室での出展やライブ等も行い、子どもからお年寄りまでも多く参加いただきました。私達大学祭実行委員会は一年生から三年生までの三十一名で四月から活動し、企画および広報の仕方などいろいろ考え、時には合宿しながら準備してきました。そして本番を迎え無事終了することが出来ました。

本大学祭開催にあたり、ご協賛頂きました協賛企業、共催団体、企画参加者の皆様、更にはご来場頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

シンデレラ・ボーイコンテストの様子

お笑いライブを待つ来場者のみなさん

# ミニ・オープンキャンパス
～今年度も道内各地・青森で開催～

今年度も八月下旬より、旭川を皮切りに北見・帯広・青森・函館・釧路の計六会場にてミニ・オープンキャンパスを開催し、地元の方々を中心に多数ご参加を頂きました。ご来場頂いた皆様にはお礼を申し上げます。

本学でのオープンキャンパスにお越しになれない地方の皆様の為とAO入学試験にエントリーされた方の第二回面談会場として三年前より実施して参りました。

今年度は前述六会場に約六十名の高校生、保護者の皆様のご参加を頂きました。

各会場とも、中村教志広報入試部長から大学全体の概要を説明申し上げ、各学科の個別相談を実施致しました。保護者の方も含め、熱心に担当教員と相談する様子がみられました。またAO入試エントリー者の第一回面談では、はじめは皆さん緊張した表情もみられましたが、面談後は笑顔に変わっていました。来年度も同様に各地でミニ・オープンキャンパスを開催する予定です。皆様のお越しをお待ちしております。

# 留学研修を終えて
## ～「アメリカ」と「南部」～

諸　洪一　人文学部教授

アメリカ東海岸のノースカロライナ州・ダーラムに所在するデューク大学は、学部生約六千三百人、大学院生七千人くらいの研究中心大学で、アメリカの「南部」を象徴するような大学である。ダーラムの目抜き通りは、赤煉瓦の古いタバコ工場跡や倉庫跡からなっており、日本でもなじみ深い銘柄の「ラッキー・ストライク」の煙突が、まだ昔の町の繁栄を物語っているかのように聳えている。

デューク家は、タバコ栽培を通してわずか二代で財をなし、ダーラムの町と今日のデューク大学の基礎を築いた。アメリカの古い伝統校がそうであるように、デューク大学の前身もプロテスタント系のトリニティ・スクールから始まっており、キャンパスの真ん中に聳えている大学のシンボルはデューク・チャペルである。大学の建物は、ニュー・イングランドの主要な大学と似ていて、高い尖塔のチャペルを囲むように並んでいる中世イギリスの築城建築様式であった。

今や世界に号令する多人種・他文化国家アメリカも、かつてはイギリスの植民地であったことを改めて思い起こしてくれたが、またイギリスの伝統と文化が根づいていることにも気づかされた。英語会話教室で、アメリカ人教員とイギリス人ボランティアが、「我々は従兄弟関係だよ」と冗談を飛ばしていることは印象的であった。州都のローリーの旧議会議事堂をはじめ至る所に南北戦争の記念碑や遺跡などがあるが、一様に南軍の将兵を称えたり顕彰している。そう！ここは「南部」なのである。

当地で一度くらいはメジャーリーグの野球を観戦したかったが、「そんなのはニュー・イングランドのヤンキーどもがやるものだ」と一蹴するバスケットボールの熱狂ファンの言葉も強烈であった。しかし何よりも印象に残ったのは、ひと味違うアメリカの「自由の空気」だったのであろうか。

一年間のかけがえのない貴重な時間を許していただいた関係者の皆様に感謝申し上げる。

Duke チャペル

サンクスギビングデーパレード

ハロウィンの様子

# 学生広報チーム
## 高校生向け大学案内冊子 ザ・SGU第3号発行しました！

学生広報チームは、七月二十九日（日）に開催された夏のオープンキャンパスに向けて、三年目になる高校生向け大学案内冊子「THE SGU」第三号を発行しました。（＝写真＝女子・男子 両面表紙）

〝学生の目線〟で作られたこの冊子、忙しい学生生活の中で取材活動を行った広報チームメンバーの苦労のかいもあり、昨年同様非常に良い出来栄えとなりました。

高校生が気になる、学食や学生のファッションページは勿論の事、現役高校生との対談でリアルな大学生への疑問質問に答えたり、先生の意外な面を引き出した学部長紹介ページなど内容は盛りだくさんです。活躍している先輩学生、学生を支援する活動、就職支援や奨学金のページも盛り込み、GAKUINの魅力を詰め込みました。

これから進路を考える高校生に、大学選びのヒントになれば幸いです。

# 札幌学院大学選書
## 「子どもの熟慮性の発達」―そのメカニズムと学校文化の影響

臼井　博　人文学部教授

昨年度の札幌学院大学選書として出版助成をいただき、自著として二冊目の『子どもの熟慮性の発達』を出すことができました。私の専門は発達心理学ですが、その中でもパーソナリティの発達に関心を持っています。心理学を始めたきっかけがどうしてものの見方や行動の仕方に個性があり、それがどのように形成されるかということでした。個性とはその人らしさ、言葉を換えると行動やものの見方・考え方のスタイルのことですが、この本の中で取り上げたのは、情報を集めるときの注意の向け方、判断や評価の行動様式（認知スタイル）です。

本書では熟慮性・衝動性の認知スタイルに焦点を当てていますが、これは問題解決のプロセスにおいて同時にいくつかの解決策が頭に浮かぶような場合に、それぞれの解決策についてどれくらい考慮するかの個人差に関するものです。自分の行動を抑制し、頭の中で行動を起こす前にいろいろと考えをめぐらすこと（熟慮性）は、就学準備性の重要な部分なので、発達を促進する働きがあり、アメリカの幼児の介入教育プログラムの枠組みに取り入れられていました。このスタイルが比較文化研究として注目されたのは次のような興味深い文化の違いが発見されたことからです。

一つは、その発達において日本の子どもの早熟傾向が明確なことです。もう一つは、日本の子どもでは小学校入学前の熟慮性は小学校高学年の学力への予測力が知能検査と同程度だったのに対して、アメリカでは低くかったことでした。つまり、学校適性についての日米の文化の違いの可能性です。学校文化の違いにより、見えないカリキュラムとして日米の子どもでは異なる社会化がなされているのではないか、ということです。

本書ではこうした問題意識にたち、十一の実験研究を行った結果を中心にまとめたものです。

**子どもの熟慮性の発達 ― そのメカニズムと学校文化の影響**
北海道大学出版会
価格：6,300円（税込）

# BOOK REVIEW 教員著書紹介

## 『現代社会と感情コミュニケーション ―日常生活におけるミクロな人間関係分析の社会学―』

内田　司（人文学部　教授）著
アーバンプロ出版センター
2011年4月発行　価格：1890円（税込）

本書執筆の一つのキッカケは、現代若者のフリーター・ニート問題に関するゼミ生たちとの議論の経験であった。学生たちの論調は、「それは本人の自業自得であり、自己責任だ」というような極めて冷たく、厳しいバッシング的意識と態度を示していた。この時、著者は、社会の中で生じる個人の社会的行動や行為、そして精神生活を社会学の視点でとらえることの意義を学生たちに伝えたいという思いを強くした。一般的に、この種の問題を論じるとき、個人の側の社会への適応力を問題にするのか、それとも社会の側の個人を受容する寛容力を問題にするのかによって、全く正反対の議論となる。上記の議論の際、ゼミ生たちは、何よりもフリーター・ニートの若者たちの社会への適応力の弱さを問題としていた。またそうなった犯人として、豊かになった戦後経済と厳しいしつけを怠ってきた親たち、とくに母親たちを厳しくバッシングしていたのである。しかし、あるときから急に上記のような問題に陥る人の数が統計学上増加傾向を示す場合には、社会の寛容力の低下が主たる要因であると考えることこそ、社会学の視点であり、社会学という学問なのである。本書を手に取り、そのことを読みとっていただければ望外の喜びである。

## 『映画で学ぶ特別支援教育』

二通　諭（人文学部　准教授）著
全障研出版部
2011年8月発行　価格：1785円（税込）

二〇〇七年四月一日をもって、それまでの「特殊教育」が「特別支援教育」へ移行したのですが、何がどう変わったのか、どのようなことが求められるようになったのかという問題を、映画をとおして、映画を素材に語ったのが本書です。

特別支援時代としての二〇〇〇年代を射程にしていますので、特殊教育の対象であった七障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、病弱、情緒障害、言語障害）を視野に収めつつも、学習障害、ADHD（注意欠陥多動性障害）、アスペルガー症候群など自閉症スペクトラム、人格障害、性的マイノリティ、被虐待、不登校・ひきこもり、高次脳機能障害、共感覚、憑依、カルトなど今日的な障害カテゴリーや困難諸相に焦点を合わせています。加えて、オリジナルな視点を提示するということを心がけました。たとえば、木下恵介作品「カルメン故郷に帰る」（一九五一）は、公開当時「愚かな娘をもった親の嘆き」としてそのテーマが語られていたのですが、いま観るなら、ADHD賛歌ムービーとしての輝きを有しています。吉村公三郎作品「越前竹人形」（一九六三）の変わり者・喜助は、自閉症スペクトラム圏に属し、生身の女性を苦手とする「萌え」とも重なります。

本書は、鑑賞の切り口を変えるテキストとしても有効です。

わたしたちの●ゼミ紹介します！

# Seminar @SGU vol.14

## 「専門ゼミナールⅠ」

大場隆広　経済学部　経済学科　准教授

「働くことについて考える」がこのゼミナールのテーマです。働くこと＝労働について経済学の視点から、皆で議論しながら学んでいます。

近年、ニート、フリーター、派遣労働、リストラ、ワーキングプア、就職氷河期など、労働に関わる話題が注目を集めています。この「働くこと」に関連した問題を経済学で考える分野を労働経済学と言います。労働経済学の基本を学ぶことを通じて現代という時代を理解し、自分の将来についてしっかり考えるのがこのゼミの狙いです。

経済学部の専門ゼミナールⅠは二年次の後期からスタートしますが、まずはテキストの各章をグループごとに担当して、各自がレジュメを作って発表し、全員で内容を検討していきます。

テキストの第一章では、「働くことの意味」について話し合いました。テキストには、アリ（勤勉だが、生活の楽しみは少ない）、キリギリス（遊びは多いが、最後に生活が破綻する）、セミ（長い苦痛の時期を耐えて、最後にはじける）、ミツバチ（適度に働き、時に仕事を離れて楽しむ）、アリギリス（アリ＋キリギリス＝四十代まで大いに働き、早く引退して生活を楽しむ）という五タイプの生き方（働き方）が示されていました。各自が「自分ならどれを選択するか、その理由は何か」を発言しました。一番人気はミツバチ八人、二番はアリとアリギリスが各三人、アリ＋ミツバチのミックスという変種も一人いました。

働き方の選択には各自の価値観・人生プランが反映されていました。「バランスの良い勝ち組」と考えてミツバチを選ぶ男子学生、「二十代・三十代はしっかり働いて、その後は結婚して家庭を重視したい」とアリギリスを選択する女子学生、「老後のゆとり」までを見据えてアリを選択する男子学生などもいました。

他にも、毎回、テーマ（最低賃金千円の是非、非正規労働の規制強化の是非など）を設定し、全員で考えます。このゼミナールでは、テキストの内容を理解し、労働経済学の基礎を修得するのはもちろんですが、テキストをきっかけに「各自が自分の考えを表現し、他の人の考えも聞く」という体験を通して、自分なりの労働観・職業観を磨くことを最終目標にしています。

みんなで議論し合います

先生の話を真剣に聞く学生たち

全員で集合写真

卒業生この人―

## 学院で学んだものを胸に

### 能登　剛さん

（2012年3月法学部法律学科卒業）

**二〇一二年に法律学科を卒業したばかりの能登さん。現在は北洋銀行にお勤めしています。在学中の思い出や仕事の内容、在学生へのメッセージなどをお聞きしました。**

**今年の三月に本学の法律学科を卒業されて半年経ちますが、お仕事は慣れましたか。また銀行での配属先・仕事内容をお聞かせください。**

配属先は、北洋銀行恵庭中央支店で、営業課預金後方を担当しています。

仕事内容としては、主に窓口に来店されたお客様の預金入出金、税金やお振込み、新規口座開設や口座振替など、幅広く銀行業務に携わる業務を行っています。

**社会人になって、最も大変だと思ったことは何でしょうか。**

「スイッチ」です。プロゴルファーの横峯さくらさんが帽子を被った瞬間にゴルフモードに切り替わるように、私たちサラリーマンもネクタイを締めた瞬間から、たとえ体調が優れなくても、前日に家族とケンカしていたとしても、スイッチひとつで仕事モードに切り替え、私生活を仕事に持ち込まないようにすることが大切だと感じています。

**最も重要なことだと考えています。**

**法律学科に入って良かったこと、思い出などをお聞かせください。**

法学部は他の学部と比べて条文や判例に触れることが多く、そのため活字には強くなったと思います。

現代社会は「契約」で成り立っていますから、たとえ就職先が金融業ではなくても、社会人になれば必然的に活字を読む力は必要ですし、そもそも法律とは守らなければならない「ルール」ですから、それを学ぶことが出来た事はとても今の人生に役立っていると思います。

**最後に本学の学生たちにアドバイスなどがあれば**

勉学と同時に就職活動も始まり、先の見えない長く険しい道を歩んでいる学生も多いと思いますが、この期間は大切な助走期間です。

札幌学院大学の卒業生が将来、さまざまなカテゴリーで高く長く飛んで行けることを願っています。

北洋銀行「店舗の前で」

卒業式「4年間共に過ごしたサッカー部のメンバーと」

卒業式「共に教職課程を履修したメンバーと」

# 夕張の今と未来

## ―新たな可能性を創造するまちへ―

### ～人文学部合同講演会を開催しました～

七月六日に夕張市長の鈴木直道氏を講師として本学に迎え、SGUホールで人文学部合同講演会が開催されました。この講演会は毎年一年生を対象に、人文学部の学問領域を越えた多様なテーマについて考えることを目的として開催されるもので、今年で十九回目を数えます。

鈴木氏は東京都職員時代に東京都から夕張市に派遣されたことをきっかけに、昨年、三十歳という、市長としては全国最少で夕張市長となりました。市長に立候補するときの悩みや、夕張市の財政破綻の経緯、市が今抱えている諸問題、夕張市再生計画の期間短縮のために設けられた、国と道と市の「三者協議」などについてお話くださいました。

「夕張市は赤字や高齢化で大変だと、今皆さんそう思われているかもしれませんが、私に言わせれば、夕張市が大変なのではなくて、これから社会に出て、日本の未来を担う若い世代の皆さんが大変なのです。夕張市が抱えている問題は夕張市だけのことではなく、日本全体に関係のあること」という鈴木市長の言葉に、学生は真剣に耳を傾けていました。

講演後の感想では「夕張市が大変なのではなくて、日本・国民が大変なのだということがよくわかった」「一番、意識を変えなくてはならないのは、私たちだと考えさせられた時間でした」「この夕張のようにならないためにはどうすればよいのか、当事者意識を持って考えていかなくてはならないと思った」などの声が聞かれ、夕張市が抱えている高齢化や人口減少などの問題は夕張市のだけのものではなく、未来の自分たちにも関係する問題であるという認識を多くの学生が持ったようでした。

講演する鈴木夕張市長

講演会全体の様子

# こども発達学科二年生

## ～南幌町の子ども達を招いて体験学習行事を行いました～

鈴木健太郎　人文学部准教授

こども発達学科二年生が、南幌町の子ども達を大学キャンパスに招いて光と色の不思議を学ぶ実験などをする体験学習行事を開催しました。

この行事は、実習科目「地域の子ども連携マネジメント実習」の一環として実施されたものです。実習では、毎年、学生主体で四月から企画・準備をすすめ、江別市や札幌市など大学近隣の子ども達を対象とした体験行事を六月下旬頃に一回開催してきたのですが、その模様を紹介した学科ホームページ「こ発の森」の記事をご覧になってお問い合わせいただいた南幌町教育委員会生涯学習課の皆様とやりとりを重ね、毎年のものとは別立ての南幌町の子供たち向け行事が実現できました。

テーマは、「あそんで学ぼう!!光と色と泡の世界～光と色の不思議実験とおもしろシャボン玉遊び～」です。バスで到着後、案内役の学生が先導して、元気なちびっ子軍団がG館上階の食堂からの見晴らしを楽しむなどキャンパス内をお散歩しました。会場の教室に着くと、学生たちが「こんにちは！」と元気な挨拶で迎え、いよいよ工夫をこらして準備した二つの企画「光と色の実験」と「シャボン玉遊び」です。見え方が様々に変わる光と色の不思議を、工作や実験やクイズを通して学びました。それに続いて、シャボン玉を手の上ではずませたり、雨合羽を着込んで大きなシャボン玉の中に入る体験をしました。子ども達の元気な声と笑顔のあふれる楽しい行事となり、苦労して準備してきた学生の皆さんにとっても得難い成功体験になったようです。

# 経営学部　河西ゼミ

## レストラン経営実習

河西　邦人　経営学部教授

経営学科では「フィールド実践」という科目を設置している。弊ゼミナールの二〇一二年度の三年生向けフィールド実践は、浦河町役場からの依頼による中心市街地活性化のためのアンケート調査と、今回紹介させていただくコミュニティカフェでの営業実習である。

実習の場は江別市東光町三三―八に立地する、「トコ・デ・カフェ」である。コミュニティカフェで実習を行うのは、開発、試作、調達、生産（料理）販売、サービスというものづくりビジネスの基本を一通り学習できるからである。

六人一グループの学生たちはトコ・デ・カフェの店舗ポリシーと顧客層に合わせた料理の内容と、原価計算をした上で価格を検討する。その後、カフェのオーナーである浅木裕子氏の指導を受け、提供する料理とそのレシピを決定し、試作する。そして、サービス内容の決定や集客のための広告宣伝を行う。こうした準備を経て営業実習日を迎えるが、営業成績では黒字のグループもあれば、赤字のグループもある。店舗オペレーションがスムーズにいかず、お客様から注意されるグループもある。

営業実習をする事で、学生は机上で学習したビジネスの計画、実行、検証、改善という経営サイクル、リーダーシップ、チームワークを実践の場で使える能力へ変えていく。こうした学習が、社会人基礎力の向上による学生の成長へつながると過去の経験から実感する。

五穀米、かぼちゃの豆乳スープ、鶏もも肉と温野菜のゴマ和えのセット

トコ・デ・カフェ外観

料理風景２

料理風景１